

佐賀新聞 2014(平成26)年10月28日(火)

⑤アトリエの名品たち



岡田名画の 周辺

『白衣の少女』（明治34年）が本展に出展されたことは、私たち学芸員にとっ
て最大の喜びのひとつだ。
大規模な洋画展への出品は
およそ30年ぶり、もちろ
ん佐賀県では初展示。そし
てこの作品は岡田三郎助の
パリ留学時代を代表する名

品で、彼の「生涯のお気に入り」の一品でもあった。
昭和7、8年頃の岡田の
アトリエを写した写真が残
っている。岡田は「此处こ
そ我が美の宇宙」といわん
ばかりに、満足げにゆった
りと腰かけ、背後の壁にこ
の『白衣の少女』が見える。
隣には、妻八千代を描いた
渾身の作『支那絹の前』（大
正9年）も。岡田はこれら
を手放すことなく、亡くな
るまでずっと傍に置いてい
た。岡田のアトリエにあっ
た名品について、昭和3年
から約7年間、書生として
岡田家に住み込みで働いて
いた画家・古沢岩美（19
12〜2000年）が、自
言の師の「教え」のよつで
あったに違いない。岡田の
没後、これら「岡田先生の
お気に入り」は、ついにア
トリエを離れるのだが、現
在、いずれの作品も最良の
居場所、所蔵先を得て、大
切に保存され、その美の輝
きを放ち続けている。本展
覧会では現在の所蔵先の方
々の協力により、これら
全ての作品に出会うことが
できる。

お気に入り は手放さず



昭和7、8年ごろのアトリエ。岡田の後ろの壁に『白衣の少女』『支那絹の前』がある

（県立美術館学芸員・野中耕介）

おわり

岡田三郎助 — エレガンス・オブ・ニッポン 11月16日まで県立美術館で